

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	福岡財務支局長
【提出日】	平成25年7月12日
【四半期会計期間】	第50期第3四半期（自平成25年3月1日至平成25年5月31日）
【会社名】	株式会社サダマツ
【英訳名】	SADAMATSU Company Limited.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 貞松 隆弥
【本店の所在の場所】	長崎県大村市本町458番地9 (上記は登記上の本店所在地であり実際の業務は下記において行っております。)
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	東京都目黒区中目黒二丁目6番20号
【電話番号】	03-5768-9957(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 磯野 紘一
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第49期 第3四半期連結 累計期間	第50期 第3四半期連結 累計期間	第49期
会計期間	自平成23年9月1日 至平成24年5月31日	自平成24年9月1日 至平成25年5月31日	自平成23年9月1日 至平成24年8月31日
売上高(千円)	5,686,528	5,759,542	7,806,913
経常利益又は経常損失() (千円)	73,519	19,100	220,286
四半期純損失()又は当期純利益 (千円)	6,176	54,732	79,093
四半期包括利益又は包括利益(千円)	4,415	11,649	77,620
純資産額(千円)	1,303,277	1,358,499	1,385,313
総資産額(千円)	6,035,466	5,796,108	5,870,657
1株当たり四半期純損失金額()又 は1株当たり当期純利益金額(円)	0.56	4.91	7.13
潜在株式調整後1株当たり四半期(当 期)純利益金額(円)			6.98
自己資本比率(%)	21.4	23.2	23.4

回次	第49期 第3四半期連結 会計期間	第50期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年3月1日 至平成24年5月31日	自平成25年3月1日 至平成25年5月31日
1株当たり四半期純損失金額() (円)	5.72	6.15

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

3 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成24年9月1日～平成25年5月31日）におけるわが国経済は、政権交代に伴う政府や日銀による経済・金融政策への期待感から円安や株高が進行し、消費マインドの改善がみられるなど回復基調となりました。しかしながら、欧州景気の低迷に加え、中国景気の鈍化が回復ペースを減速させるなど依然として先行き不透明な状況となりました。

流通業界におきましては、企業や家計の景況感が改善傾向となるなか、百貨店での高額品の売れ行きが好調に推移するなどのプラス面がある一方で、全体的な所得環境に大きな改善はみられず、依然として企業間の価格競争が求められるなど、厳しい経営環境が続きました。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、「成長軌道の確立」に向けて、ジュエリーにおける精神価値訴求型のブランド・イメージ戦略を成長戦略の基軸に据え事業を推進してまいりました。

親会社の株式会社サダマツでは、その核となる取り組みとして、当社独自の特別なカットにより大小2つの星が映し出されるダイヤモンド“Wish upon a star”を開発し、「夢を叶えるダイヤモンド」をテーマとしたプロモーション活動や当社の強みを活かした提案販売による精神価値マーケットの創造に注力しました。その結果、差別化商品としての認知度が段階的に向上し、売上は好調に推移しております。店舗展開におきましては、3月にアミュプラザ小倉店（福岡県）、マルイファミリー志木店（埼玉県）の2店舗、4月にマークイズ静岡店（静岡県）、名鉄百貨店（愛知県）、イオンモール東久留米店（東京都）、新宿タカシマヤ店（東京都）の4店舗をそれぞれ新規出店し、当第3四半期連結会計期間末の国内店舗数は83店舗となりました。このような取り組みにより、国内売上高は前年同期に比べ1.2%増加しました。

利益面に関しては、地金価格の段階的な高騰が利益圧迫要因となりましたが、売上高の増加に加え、販売価格の改定やベトナム子会社の活用で商品原価の低減に努めた結果、売上総利益は前年同期を上回りました。営業利益に関しては、積極的なブランド強化策や各分野における専門性の高い人材の確保に投下した費用に加え、集客拡大のための宣伝広告費の投入により販売費及び一般管理費が前年同期に比べ大幅に増加したため、若干のマイナスとなりました。経常損益に影響を及ぼす営業外損益に関しましては、為替変動に伴う為替差益の発生に加え、有利子負債の圧縮により支払利息が低減したため、前年同期に比べ大きく改善しました。

海外小売部門である在台湾子会社の台湾貞松股?有限公司（日本名：台湾貞松株）に関しては、グループマネジメント体制の再強化を進めた結果、売上・利益ともに大きく改善しました。海外生産部門であるベトナム子会社のD&Q JEWELLERY Co., Ltd.（日本名：ディーアンドキュー ジュエリー）に関しては、“Wish upon a star”を中心とした主軸商品や高額商品の生産を拡大するなどグループシナジーの最大化を目的とした製造機能強化を図りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高5,759百万円（前年同四半期比1.3%増）、営業損失5百万円（前年同四半期営業利益109百万円）、経常損失19百万円（前年同四半期経常利益73百万円）、四半期純損失54百万円（前年同四半期純損失6百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は5,796百万円となり、前連結会計年度末に比べ74百万円減少いたしました。その要因は主に、商品及び製品が248百万円、原材料が32百万円、有形固定資産が65百万円、投資その他の資産が22百万円増加したものの、現金及び預金が392百万円減少したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は4,437百万円となり、前連結会計年度末に比べ47百万円減少いたしました。その要因は主に、未払金及び未払費用が45百万円、長期借入金が87百万円増加したものの、社債が50百万円、未払法人税等が131百万円減少したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は1,358百万円となり、前連結会計年度末に比べ26百万円減少いたしました。その要因は主に、為替換算調整勘定が42百万円増加したものの、利益剰余金が82百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は23.2%となり、前連結会計年度末に比べ0.2ポイント減少いたしました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,120,000
計	30,120,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年5月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年7月12日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	11,387,000	11,387,000	大阪証券取引所 JASDAQ市場 (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	11,387,000	11,387,000		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年3月1日～ 平成25年5月31日		11,387,000		743,392		550,701

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成25年2月28日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成25年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 231,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,145,000	11,145	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準的な株式
単元未満株式	普通株式 11,000		同上
発行済株式総数	11,387,000		
総株主の議決権		11,145	

【自己株式等】

平成25年2月28日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社サダマツ	長崎県大村市本町458番地9	231,000		231,000	2.03
計		231,000		231,000	2.03

(注) 当第3四半期会計期間末日現在の自己名義所有株式数は135,000株、その発行済株式総数に対する所有割合は1.19%であります。

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は次のとおりであります。

退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
取締役会長	-	貞松豊二郎	平成24年12月14日

(注)平成24年12月14日逝去により退任いたしました。

新任役員

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)	就任年月日
取締役	-	田中 道昭	昭和39年12月13日生	昭和62年4月 株式会社三菱銀行 入行 平成10年3月 シティバンク 入行 平成12年1月 バンクオブアメリカ証券会社 入社 平成14年5月 A B Nアムロ証券会社 入社 平成15年8月 株式会社日本ストラテジック ・ファイナンス総合研究所 代表取締役社長(現任) 平成18年6月 株式会社マージングポイント 代表取締役社長(現任) 平成25年5月 当社取締役(現任)	(注)	-	平成25年 5月14日

(注)平成25年5月14日開催の臨時株主総会の終結の時から平成25年8月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年3月1日から平成25年5月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年9月1日から平成25年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、UHY東京監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,173,485	781,213
受取手形及び売掛金	613,712	541,959
商品及び製品	2,602,497	2,850,877
原材料	278,257	310,937
繰延税金資産	35,836	28,417
その他	83,388	115,607
貸倒引当金	892	977
流動資産合計	4,786,284	4,628,035
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	326,391	390,299
減価償却累計額	149,283	188,064
減損損失累計額	4,036	4,036
建物及び構築物(純額)	173,072	198,198
機械装置及び運搬具	44,964	54,403
減価償却累計額	30,448	38,866
機械装置及び運搬具(純額)	14,515	15,537
工具、器具及び備品	139,413	180,119
減価償却累計額	90,696	105,861
減損損失累計額	904	904
工具、器具及び備品(純額)	47,812	73,352
土地	90,478	90,478
リース資産	86,271	115,013
減価償却累計額	28,331	42,778
リース資産(純額)	57,940	72,235
有形固定資産合計	383,819	449,802
無形固定資産	18,728	15,440
投資その他の資産		
投資有価証券	96,427	97,614
繰延税金資産	50,563	56,486
差入保証金	433,506	442,919
その他	96,401	103,979
貸倒引当金	4,857	6,261
投資その他の資産合計	672,040	694,738
固定資産合計	1,074,588	1,159,981
繰延資産	9,784	8,091
資産合計	5,870,657	5,796,108

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	662,513	675,333
短期借入金	1,937,856	1,916,138
1年内償還予定の社債	100,000	100,000
未払金及び未払費用	397,620	443,081
未払法人税等	131,659	-
賞与引当金	41,863	39,198
その他	204,465	169,066
流動負債合計	3,475,977	3,342,818
固定負債		
社債	350,000	300,000
長期借入金	401,432	489,198
退職給付引当金	135,210	155,021
その他	122,724	150,570
固定負債合計	1,009,366	1,094,789
負債合計	4,485,344	4,437,608
純資産の部		
株主資本		
資本金	743,392	743,392
資本剰余金	550,701	550,701
利益剰余金	172,979	90,851
自己株式	27,167	12,674
株主資本合計	1,439,905	1,372,269
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	409	78
為替換算調整勘定	68,114	25,518
その他の包括利益累計額合計	68,523	25,440
新株予約権	13,931	11,671
純資産合計	1,385,313	1,358,499
負債純資産合計	5,870,657	5,796,108

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年5月31日)
売上高	5,686,528	5,759,542
売上原価	2,239,758	2,281,216
売上総利益	3,446,770	3,478,325
販売費及び一般管理費	3,336,787	3,483,791
営業利益又は営業損失()	109,982	5,465
営業外収益		
受取利息	1,654	1,104
受取家賃	857	857
協賛金収入	399	2,271
為替差益	-	18,915
その他	1,240	1,168
営業外収益合計	4,151	24,317
営業外費用		
支払利息	34,295	29,040
社債利息	1,651	1,947
社債発行費償却	940	1,693
社債保証料	1,737	2,350
為替差損	1,297	-
その他	692	2,921
営業外費用合計	40,614	37,952
経常利益又は経常損失()	73,519	19,100
特別損失		
その他	902	-
特別損失合計	902	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	72,616	19,100
法人税、住民税及び事業税	59,193	34,135
法人税等調整額	19,599	1,496
法人税等合計	78,793	35,631
少数株主損益調整前四半期純損失()	6,176	54,732
四半期純損失()	6,176	54,732

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	6,176	54,732
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	170	487
為替換算調整勘定	1,591	42,595
その他の包括利益合計	1,761	43,082
四半期包括利益	4,415	11,649
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,415	11,649

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当座貸越契約及び貸出コミットメント契約

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため、前連結会計年度末においては取引銀行8行と、当第3四半期連結会計期間末においては取引銀行10行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。当第3四半期連結会計期間末における当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入金未実行残高等は次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成24年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	1,950,000千円	2,250,000千円
借入実行残高	1,600,000	1,550,000
差引額	350,000	700,000

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年5月31日)
減価償却費	79,184千円	82,708千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年9月1日至平成24年5月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年11月25日 定時株主総会	普通株式	22,195	2.00	平成23年8月31日	平成23年11月28日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成24年9月1日至平成25年5月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月28日 定時株主総会	普通株式	22,193	2.00	平成24年8月31日	平成24年11月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年9月1日至平成24年5月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成24年9月1日至平成25年5月31日)

当社グループは、宝飾、眼鏡、時計の製造及び販売の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年5月31日)
1株当たり四半期純損失金額	0円56銭	4円91銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(千円)	6,176	54,732
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額(千円)	6,176	54,732
普通株式の期中平均株式数(株)	11,097,517	11,138,348

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 7月12日

株式会社サダマツ
取締役会 御中

UHY東京監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 車田 英樹

指定社員
業務執行社員 公認会計士 谷田 修一

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社サダマツの平成24年9月1日から平成25年8月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年3月1日から平成25年5月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年9月1日から平成25年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社サダマツ及び連結子会社の平成25年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。